

令和 5 年度

第 92 回全国民生委員児童委員大会（広島大会）

活動交流集会 資料

【活動交流集会 2】

障がい者が生活しやすい地域づくり

令和 5 年 11 月 22 日（水）

全国民生委員児童委員連合会

【活動交流集会 2】

障がい者が生活しやすい地域づくり

ねらい

本集会では、行政や当事者団体、施設等の地域の関係者とともに連携した各地の取り組みを紹介し、障がいのある人が地域で安心して生活し、社会参加をすすめるために、民生委員・児童委員、民児協として、どのような取り組みができるのかを考えます。

また、障がい者やその家族の思いに配慮した相談・支援に取り組むうえで留意すべき点などの理解を深めます

■コーディネーター おお つか あきら
大 塚 晃 (上智大学 総合人間科学部 特任教授)

■事例発表者 な か う じ せ つ お
中 宇 地 節 雄 (鳥取県 鳥取市青谷地区
民生児童委員協議会 会長)

か さ は ら よ し み
笠 原 好 美 (川崎市 川崎市幸区御幸西第2地区
民生委員児童委員協議会 会長)

い の ゆ み こ
伊 野 有 美 子 (広島市 広島市西区南観音地区
民生委員児童委員協議会 会長)

■運営責任者 い し ば し そ う じ
石 橋 壯 児 (全国民生委員児童委員連合会 理事)

■運営幹事 は ら も と か ず ゆ き
原 本 和 幸 (広島市民生委員児童委員協議会 副会長
／広島市安佐南区民生委員児童委員協議会 会長)

■司会進行 こ ま つ こ う じ ろ う
小 松 孔 二 郎 (広島市民生委員児童委員協議会 理事
／広島市西区民生委員児童委員協議会 会長)

※敬称略

※写真に写る人物には発表者等を通じて掲載の了承を得ました

【活動交流集会 2】コーディネーター

障がい者が生活しやすい地域づくりのために

上智大学 総合人間科学部
特任教授 大塚 晃

「障がい者が生活しやすい地域づくりのために」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019 年末に確認されて以降、世界的に感染が拡大しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活様式は大きく変わる事となりました。新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまで、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）」とされていましたが、2023 年 5 月 8 日から「5 類感染症」になりました。しかし、その影響は今なお大きなものがあります。

このように、コロナ渦で日常生活や社会生活に新たな障壁ができてしまう状況において、「地域共生社会」の実現が大きな課題となっています。「地域共生社会」は、生活に身近な地域において、住民が世代や背景を超えてつながり、相互に役割を持ち、「支え手」「受け手」という関係を超えて支え合う取組を育んでいくことです。これにより、わが国に暮らす国民一人ひとりが、生活における楽しみや生きがいを見出し、さまざまな困難を抱えた場合でも、社会から孤立せず、安心してその人らしい生活を送ることができる社会の実現をめざしています。「地域共生社会」は誰もが安心してその人らしく生きていける社会をつくることです。これまでも地域福祉実践として進められてきたことです。今度は、「我が事・丸ごと」という地域住民の視点、実践を通じて、体感し、現実的なものとなっていくでしょう。地域福祉の実践を推進するために、民生委員・児童委員の役割はますます重要になってきています。

このようなわれわれがめざすべき共生社会において、大切なことは何でしょうか。それは、それぞれの人がお互いを理解するとともに、それぞれの人にそれぞれの役割が与えられることと考えています。役割が与えられ役割に応えることにより、自分が価値あるものとして認められとともに、自分も価値ある存在であるという感情をもてることになります。障がい者やさまざまな生活上困難を抱えている人たちに対して、効率性の観点からその存在を脅かすような行為や動きが出ている今だからこそ、すべての人は価値ある存在であるという認識が、改めて必要になってきていると考えています。

医療技術の進歩に伴い人工呼吸器等装着した医療的ケア児が増加してきました。医療的ケア児及びその家族が個々の医療的ケア児の心身の状況等に応じた適切な支援を受けられるようにすることが重要な課題となってきました。「医療的ケア児支援法」が、2021 年 6 月に制定され、同年 9 月より施行されています。この法律は、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関し、基本理念を定め、国、地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、保育及び教育の拡充に係る施策その他必要な施策並びに医療的ケア児支援センターの指定等

について定めることにより、医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに、その家族の離職の防止に資し、もって安心して子どもを生み、育てることができる社会の実現に寄与することを目的としています。人口呼吸器を装着するなどの重い障がい児の地域での生活を整えるもので、まさに地域共生社会を創設していくものです。2023 年 4 月より、こども家庭庁がスタートし、障がいのあるこどもをまんやかに置き、地域社会への参加・包容（インクルージョン）を推進するとされています。

すべての障がい者が、障がい者でない者と等しく、基本的人権を享有する個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有することを踏まえ、障がいを理由とする差別の解消の推進に関する基本的な事項、行政機関等及び事業者における障がいを理由とする差別を解消するための措置等を定めることにより、障がいを理由とする差別の解消を推進し、もってすべての国民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的とした、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が 2016 年 4 月に施行されました。共生社会を実現する上で障がいを理由とする差別の解消が重要であることから、国民に障がいを理由とする差別の解消の推進に寄与するよう努めなければならないとされたことは、障がい者の権利を擁護していく上で大きな前進となるでしょう。また、行政機関等及び事業者が事務または事業を行うに当たり、障がい者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合、その実施に伴う負担が過重でないときは、障がい者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障がい者の性別、年齢及び障がいの状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をしなければならないものとされています。

障がい者や難病患者等が安心して暮らし続けることができる地域共生社会をめざす、障害者総合支援法の改正が 2022 年に行われました。具体的には、障がい者等の地域生活や就労の支援の強化等により、障がい者等の希望する生活を実現するため、①障がい者等の地域生活の支援体制の充実、②障がい者の多様な就労ニーズに対する支援及び障がい者雇用の質の向上の推進、③精神障がい者の希望やニーズに応じた支援体制の整備、④難病患者及び小児慢性特定疾病児童等に対する適切な医療の充実及び療養生活支援の強化、⑤障がい福祉サービス等、指定難病及び小児慢性特定疾病についてのデータベースに関する規定の整備等の措置を講ずるものです。

本活動交流集会においては、全国で活躍されている民生委員・児童委員の実践の発表をいただいて、障がい者が生活しやすい地域共生社会づくりについてさまざまな角度から、皆様とともに検討していきたいと思います。その際、民生委員・児童委員に期待される役割や、障がい者やその家族の想いに配慮した相談・支援に取り組むうえで留意すべき点についても理解を深め、今度の取り組みについて考えてみたいと思います。

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

精神障がい者と家族が安心して暮らせる地域づくり

鳥取県 鳥取市青谷地区民生児童委員協議会
会長 中宇地 節雄

1. 鳥取市青谷町の紹介

(1) 位置

- ◇2004 年 11 月 1 日に「平成の大合併」として、鳥取市を含む 1 市 8 町村が合併して、新・鳥取市が誕生 —— 旧青谷町は「鳥取市青谷町」に
- ◇青谷町は新鳥取市の西の端に位置しており、東西 8 km・南北 13 km、総面積は 68 平方キロメートル。日本海に面して、山地や丘陵に囲まれた自然豊かな地域
- ◇弥生人の脳が出土したことで知られる国史跡 青谷上寺地遺跡をはじめ、山陰海岸ジオパーク、因州和紙の生産も盛んな歴史と文化に富む地域

(2) 人口(本年 7 月末現在)

- ◇世帯数 2,332 世帯(43 集落) ◇人口 5,270 人 ◇高齢化率 45.8%

(3) 青谷地区民生児童委員協議会の現状

- ◇定数 29 人(うち欠員 3)
- ◇民生児童委員 24 人(欠員 3) ◇主任児童委員 2 人 ◇計 26 人

2. 青谷地区で暮らす精神障がい者の状況

(1) 概要

- ◇家族や支援者、医療機関などの支援を得ながら生活している人、ひとり暮らしをしている人、就労支援事業所や仕事に出て社会活動をしている人など、さまざま
- ◇なかには、ひきこもり状態で社会的に孤立している人、支援を拒否している人など、支援につながっていないために困難を抱えながら生活している人も

(2) 町内の障がい者の人数(手帳保持者数)

- ◇身体 274 人 ◇知的(療育) 60 人 ◇精神 82 人
- ◇身体は減少傾向にあり、精神は年々増加傾向に

(3) 当事者や家族の思い

- ◇当事者 —— 「自分の病気のことをあまり知られたくない」という人、「この病気のことを地域に理解してほしいので、発信してほしい」という人も
- ◇家族 —— 家族会への参加について、「精神障がい者の家族会という名称だと、参加することに抵抗感が強い」との声、「地域からの支援がないとやっていけないのだから、隠さなくても良いのでは」「精神障がいは病院と薬だけでは治らない。地域の支援が大切」との声も

3. 鳥取市西地域つながる会の活動

(1) 会の名称・目的

① 名称

- ◇正式な名称は —— 鳥取市西地域精神障がい者や家族が安心して暮らせるための連絡会(略称：西地域つながる会)
- ◇事務局は —— 鳥取市気高町総合支所市民福祉課内

② 目的

- ◇精神障がい者や家族に関わる関係機関がつながり、協議や情報交換および学習などを通して、精神障がい者や家族が安心して地域のなかで自分らしくいきいきと

暮らせるために、当事者および家族と地域住民との交流や学習会などにより、精神障がい者に対する地域の理解を深める活動を行い、精神保健福祉対策の向上を図る(会則より)

③ 構成メンバー

◇キラリ☆えがおの会(当事者の会)、汐さいの会(精神障がい者家族会)、ほっとカフェ(気高町)、ふわっとカフェ(青谷町)、ベストフレンド(精神障がい者を支援する会)、就労継続支援B型5事業所「さくら工房」・「はまむら作業所」・「すずかけ」・「のぞみハウス」・「かぼす」、西部地域3町民生児童委員協議会、西部地域各総合支所保健師(市職員)、有識者、オブザーバー

④ 「西地域」とは

◇合併前の旧気高郡3町(気高町・鹿野町・青谷町)の区域を「西地域」「西部ブロック」などと呼んでいる

◇気高町 —— 世帯数 3,342 世帯 人口 8,053 人 高齢化率 36.0%
委員定数 29 人 民生児童委員 27 人 主任児童委員 2 人
手帳保有数(身体 332 人 知的 75 人 精神 115 人)

◇鹿野町 —— 世帯数 1,440 世帯 人口 3,398 人 高齢化率 40.9%
委員定数 16 人 民生児童委員 14 人 主任児童委員 2 人
手帳保有数(身体 172 人 知的 109 人 精神 41 人)

(2) 主な経過

◇2016年2月 第1回の会合を開催し、会の活動がスタート
◇2018年12月 気高町に「ほっとカフェ」がオープン
◇2020年4月 青谷町に「ふわっとカフェ」がオープン

(3) これまでの主な取り組み

① 会議

◇2016年以降、毎年6回程度の開催
◇会としての活動計画、参加団体の活動交流、当事者や家族の困りごとなどについて情報共有、意見交換を行っている

② 研修会(公開講座)の開催

◇「汐さいの会」研修会(2016年8月、17年6月・8月・10月)
◇みんなが安心して暮らせるための研修会(2019年11月・20年10月)、本年11月に第3回の研修会を開催するため準備中 ⇒「ひとりじゃないよ いつもの暮らしにつながる笑顔」と題する寸劇(上演時間：約30分)を作成して発表する予定

③ 気高図書館「フレンズまつり」への参加

◇パネル展示や物品販売などを実施(2016年10月)したほか、20年7月には気高図書館で「つながる会」に参加している各団体の活動を紹介するパネル展示

④ 「気高ときめきまつり」への参加

◇パネル展示を実施(2016年10月)

⑤ 「しょうが ぽかぽかフェスタ」への参加

◇気高町の特産物である「日光しょうが」を広くPRするイベントの「しょうがぼかぽかフェスタ」で、「きらり☆えがおの会」のメンバーがつくった「きらり☆えがおの会の歌」を舞台発表したほか、物品販売や啓発パネルを展示(2017年3月)

⑥ 「貝がら節まつり」への参加

◇気高町・浜村温泉街で8月に開かれる「貝がら節まつり」の総踊りに参加(2017年・18年)

⑦ 出前カフェ

◇青谷町で開催されたイベント「あおいち」に「出前ほっとカフェ」を出店。「ほっとカフェ」のPRとともに、相談も受け付け(2019年9月)。青谷町内での「ふわっとカフェ」の開設につながる

⑧ 人権講座

◇青谷町みんなで学ぶ人権講座(2016年7月・20年9月)、鳥取市西人権センターの人権研修(17年3月・5月)などで講演・活動紹介

⑨ 民生委員への啓発

◇鳥取市民児協全体研修会での活動報告(2017年10月)
 ◇鳥取市民児協生活福祉部会での講演(2021年2月)
 ◇鳥取市民児協西部ブロック研修会で講演(2017年7月)
 ◇青谷地区民児協定例会で講演(2016年6月)
 ◇鹿野地区民児協定例会でパネル展示(2016年12月)

⑩ その他

◇鳥取市精神保健福祉交流会(2017年3月・18年2月)、鳥取県福祉研究学会研究発表会(21年2月)などで活動発表
 ◇バーベキュー交流会でメンバーの交流・親睦を深める(2017年9月・18年9月)

(4) 居場所づくり

◇家族会のなかで「気軽に集い、話せる場所がほしい」との声があり、当事者・家族の居場所づくりが始まった
 ◇居場所を提供し、精神障がい者をはじめとした障がい者やその家族、引きこもりや閉じこもりの人の思いを傾聴することにより、不安感や負担感を軽くし、社会参加へのきっかけづくりをめざす。あわせて、これらの活動をとおして、地域住民とともに安心して暮らせる共生社会のまちづくりをめざす

① ほっとカフェ

ア) 開催日・場所

◇毎週水曜日 午後1時30分～4時30分
 ◇気高町・浜村商店街の喫茶店を借りて、2018年12月にオープン

イ) 利用実績

◇開設から4ヵ月間(2018年12月～19年3月)の実績

回数	利用者		ボランティア	総数
	当事者	一般		
16回	116人	109人	84人	309人

ウ) 利用者の声

- ◇「ここに来れば、自分のことを受け止めてくれる。ほっとする」、「ここなら気兼ねなくなんでも話せる。もう一つの家みたいなものだ」

エ) 民生委員のかかわり

- ◇気高地区民児協は、障がい者部会に所属する委員を中心にスタッフやボランティアとして参加

オ) おもな取り組み

- ◇食事と居場所の提供、地域の人たちとの交流により障がいへの理解を広げようと、2019年4月の大型連休中に「春らんまん*みんな集まれ ほっとカフェ」を企画。100円カレーやコーヒーなどを販売。親子連れや近所の人など、当事者22人を含む110人の来店でにぎわった
- ◇1周年お祝い会(2019年12月)

② ふわっとカフェ

ア) 開催日・場所

- ◇毎月第2・第4金曜日 午後2時30分～4時30分
- ◇青谷町・駅前地区にある喫茶店(休店中)を借りて、2020年4月にオープン

イ) 利用実績

- ◇2022年度(2022年4月～23年3月)の実績

回数	利用者		ボランティア	総数
	当事者	一般		
22回	112人	94人	90人	296人

ウ) 民生委員のかかわり

- ◇青谷地区民児協からは、数人の委員がスタッフ・ボランティアとして参加

エ) おもな取り組み

- ◇2023年秋にオープン予定の「青谷上寺地遺跡・史跡公園」のプレイベントとして、2022年11月に鳥取県の主催で開かれた「かみじちフェスタ」に出店してPR。本年11月に開催される「かみじちフェスタ」にも出店の予定。青谷地区民児協もブースを設けて活動をPRする予定

4. 今後の展望や課題

- ◇精神疾患は誰でもかかる可能性のある病気であるにもかかわらず、地域のなかでは精神疾患に対する無理解や誤解、偏見が根強く残っている。日常の身近なところから正しい理解を広げ、当事者や家族が安心して暮らせる地域づくりをすすめることが必要
- ◇民生委員としても、当事者や家族への見守り、声かけとともに、地区民児協の定例会などで学習・研修をすすめる
- ◇鹿野地域における居場所づくりをすすめる

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

【活動交流集会 2】事例発表者

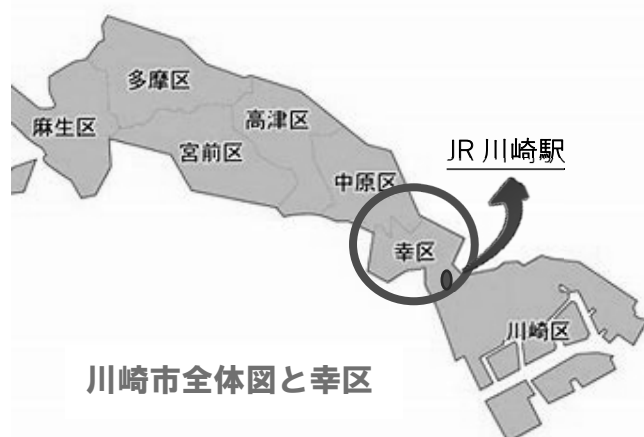
障がい者が生活しやすい地域づくり
～視覚障害者用誘導ブロック設置調査をして考えたこと～

川崎市 川崎市幸区御幸西第 2 地区民生委員児童委員協議会
会長 笠原 好美

★川崎市幸区御幸西第2地区の概要

神奈川県川崎市は、多摩川をはさんで東京都の南側に隣接し、ほとんどが住宅地を占めています。住民は古くから居住している高齢者と高層マンションや戸建ての新築住宅に移り住んだ若い世帯とに二分されます。

御幸西第2地区の住民が川崎駅に出るために利用するのは、JR 南武線鹿島田駅または川崎市営バスです。そのような時、視覚障がい者にとって、点字ブロックがきちんと整備されているかどうかは重要なことです。



御幸西第2地区の現況

(R5.6月現在)

人口 12,844 人
世帯数 6,346 世帯
構成 3 町会 + 1 自治会

御幸西第2地区民児協の構成

民生委員・児童委員 19 人 (欠員 1 人)
主任児童委員 1 人 (欠員 1 人)
3つの福祉部会の構成
➤ 児童福祉部会 (6 人)
➤ 高齢者福祉部会 (8 人)
➤ 障害者福祉部会 (6 人)

★視覚障害者用誘導ブロック調査をした訳

国連は、毎年 12 月 3 日を「国際障害者デー」としており、日本では 12 月 3 日～9 日を「障害者週間」としています。

障害者部会として、このような「障害者週間」に合わせた取り組みができないかを模索する中、また、新型コロナウイルス感染症が拡大し活動が制約される中、全国に 32 万人いるといわれる視覚障がい者に焦点を当て、視覚障害者用誘導ブロック（点字ブロック）調査を実施することにしました。

御幸西第2地区民児協の地区内で運行されている川崎市営バス「上平間営業所」～「御幸公園前」上り・下り両方の停留所 14 カ所の点字ブロック調査を 2021 年 3 月 16 日（火）に部会員全員参加で実施しました。

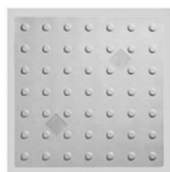
点字ブロックは、1965 年に岡山県在住の三宅精一氏によって考案され、1967 年 3 月 18 日、岡山県立盲学校に近い国道 250 号原尾島交差点周辺に世界で初めて設置されました。日本記念日協会により、3 月 18 日は「点字ブロックの日」と認定されています。

★誘導ブロックの種類

線状ブロック
進行方向を示す
ブロック



点状ブロック
危険を示す
ブロック



通常はこのように組み合わせて敷設されている



★今回調査の川崎市営バスの路線図



調査バス路線
(バス停数 7 合計距離 1.5 km)

上平間営業所⇒古市場 2 丁目⇒古市場交番前⇒
古市場 1 丁目⇒天満天神社前⇒東古市場⇒御幸
公園前

★今回の調査での問題点と課題

①上平間営業所・②古市場 2 丁目・②古市場交番前（上り・下り）
のバス停 6 か所に、線状ブロック・点状ブロックの敷設がされて
いませんでした。

③天満天神社前（上り）のバス停、点状ブロック上に障がい物（ベ
ンチ）が置かれ、危険な状態であることがわかりました。

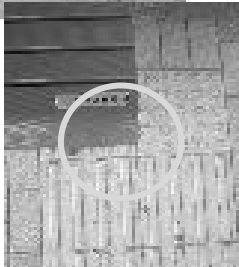
①～③の状況をさらに詳しく次ページにまとめました。

調査でわかった結果を踏まえ、2022 年 3 月 29 日（火）
に担当部署である川崎市幸区役所道路公園センターに
意見具申をし、改善を求めました。

★意見具申と行政の回答

	バス停名	要望・問題点 (写真)	行政からの回答日及び 回答内容	改善された状況
①	上平間営業所	線状ブロック・点状ブロックが敷設されていない 	(2022/3/29) 道路管理者である交通局に送付、協議を進める (2022/3/30) ・上平間営業所の管轄である中原区に点字ブロック敷設の要請があることを伝えた ・点字ブロック設置依頼したが、設置は「努力義務」となっており、実現可能かはわからない等の回答を得る	(2023/1/6) 点字ブロック設置を確認 

	バス停名	要望・問題点 (写真)	行政からの回答日及び 回答内容	改善に至っていない状況
②	古市場 2 丁目・古市場交番前	線状ブロック・点状ブロックが敷設されていない 【古市場 2 丁目】  【古市場交番前】 	(2022/3/29) ・固定式バス停ではなくバス停が動いたりする可能性があるため、点字ブロックの設置は難しいかもしれない ・バス停固定の申請を道路公園センターから投げかけてみる ・歩道が狭い所は設置が難しいので、要望にすべて答えるのは難しい	(2023/1/6) 点字ブロックの未設置を確認

	バス停名	要望・問題点 (写真)	行政からの回答日及び 回答内容	改善された状況
③	天満天神社 前	点状ブロック上に障がい物 (ベンチ) が置かれている  	(2022/3/29) 交通局が早急に対応する	(2023/1/6) ベンチの移動を確認 

★最後に知ってほしい・白杖サイン

皆さんは、視覚障がいがある人が白杖を頭の上まで掲げるしぐさが何を意味するか分かりますか？

点字ブロックのない道や、行く手を阻む障がい物が置かれている時、付き添う人がいない時に、周囲に助けを求めるサインの一つだそうです。白杖を頭上 50cm 程度に掲げ、周りの人に手助けを求めていることを知らせているのです。



白杖 SOS シグナル

このような SOS シグナルがあることやその意味を皆が知っていることが障がい者にとって安心して暮らせる社会と言えるのではないのでしょうか。

★視覚障害者用誘導ブロック調査を通して学んだこと

障がい者に関することは、障がい者自身や家族も公にすることを避けたがる傾向があり、民生委員・児童委員であっても地域にどのような障がい者がいらっしゃるか把握することが難しいと日々の活動から感じています。

そこで、私たちは、まず川崎市の障がい者福祉の概要について、幸区役所高齢・障害課から説明を受け、**障がいがあってもどんな支援があれば地域で生活できるのか**といった障がいに対するとらえ方を学びました。そこから現状を掴むため**誘導ブロックの敷設状況に焦点をあてて現地調査し、問題点や課題をまとめて行政に伝え、改善を求める**ところにまで活動を広げることができました。さらに**視覚障がいのある川崎市職員を講師に招いて研修を行い**、障がいのある方への接し方や視覚障がいのある方の求めていることは何か、どのように接すれば支援することにつながるのかについて具体的に学んだことで視野が大きく広がっていきました。

このように、問題があることを何となく感じているだけで終わらせず、さまざまな視点から考えていくことが、障がい者が安心して暮らしていける地域づくりはもちろん、さまざまな課題解決に繋がっていくことを今回の調査を通して感じました。

★民生委員・児童委員として・・・

障がいのある人もない人も、お互いにひとつとだと思わず、助け合える社会・地域づくりをめざし、これからも日々努力を重ねていきたいと思います。

そして、地域のさまざまな状況を把握し、民生委員・児童委員として、行政機関等への『つなぎ役』として、さらなる活動を続けていきましょう。

川崎版民生委員児童委員キャラクター
かわさきミンジー



【活動交流集会 2】事例発表者

繋がりあうこと
～地域で協働する機会をつくる～

広島市 広島市西区南観音地区民生委員児童委員協議会
会長 伊野 有美子

活動交流集会 2

事例発表

繋がりがあうこと

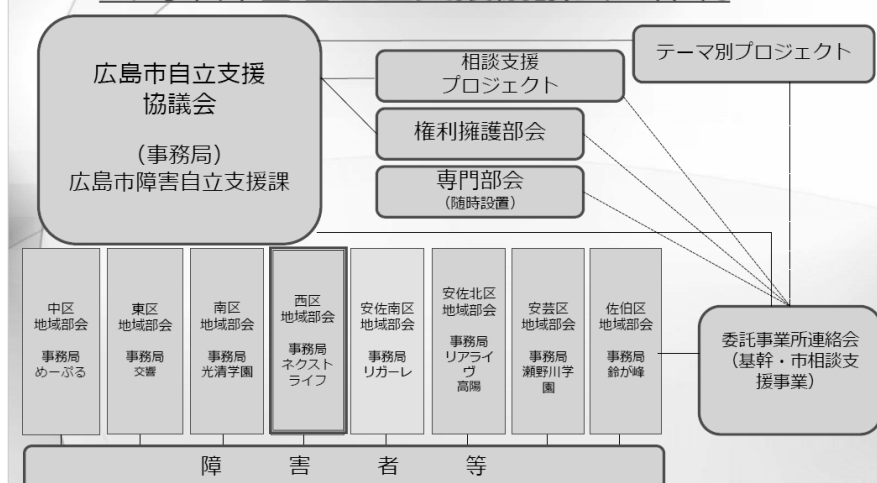
～地域で協働する機会をつくる～

南観音地区民生委員児童委員協議会

伊野 有美子

はじめに～広島市障害者自立支援協議会～

広島市障害者自立支援協議会の体制 令和5年4月現在

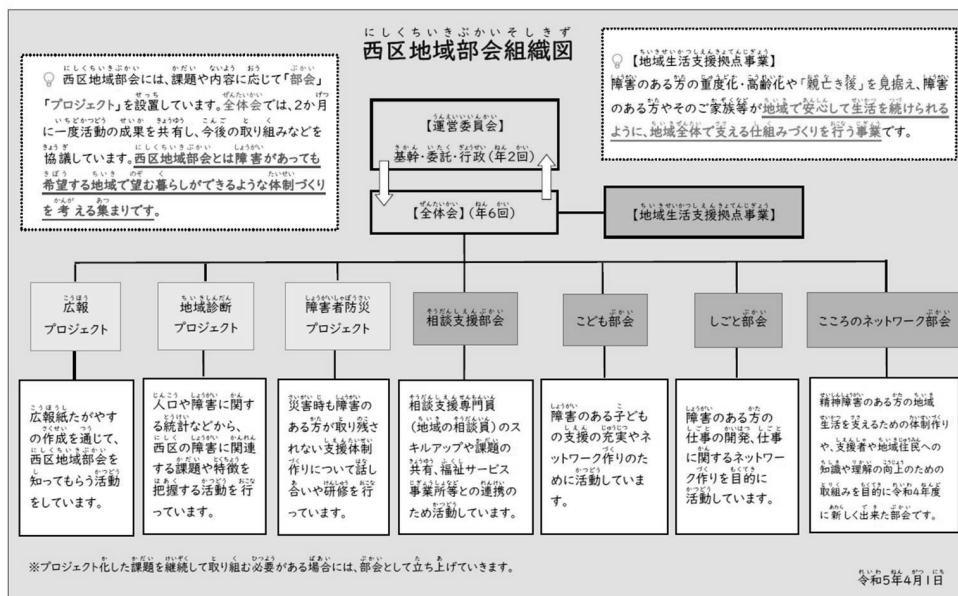


広島市内の8区全てにおいて「地域部会」を開催し、最終的に広島市自立支援協議会において施策等について討議している。各区の地域部会は、広島市から委託を受けた基幹相談支援センターが中心事務局となって運営、開催をしており、地域ごとの状況に応じて、さらに細かな部会を編成しているところもある。

※第八十九条の三（協議会の設置）に基づき、広島市は、基幹相談支援センターが事務局を担うが、地域の相談支援体制、地域づくりの核としての適切かつ活性化した協議会にするためには、障害児者等個々の様々な困りごと、悩み、不安等の相談に応じ、解決、解消に取り組むことで、具体的な個々の課題や資源の不足等を感じている相談支援従事者の参画は重要であり、また、設置主体であり相談窓口でもある市区町村行政の協議会への主体的な参画は必須である。【行政＋相談支援事業＝地域相談支援体制・地域づくりの基盤（土台）】

（広島市障害者自立支援協議会 安佐南区地域部会HP「自立支援協議会って何？」より引用、一部加工）

広島市障害者自立支援協議会 ～西区地域部会～



広島市西区では、
基幹相談支援センターとして
「ネクストライフ」
(母体：草津病院を運営する
医療法人社団更生会)
委託相談支援事業所として
「相談支援事業所いくせい」
(母体：社会福祉法人広島市
手をつなぐ育成会)
が中心となって地域部会を運
営している。

(広島市HP「広島市障害者自立支援協議会西区地域部会の活動（広報誌『たがやす』 No.0015）」より引用）

広島市の障がい者の就労支援の取り組み



(左：広島障がい者就労支援協議会「就労移行支援って何?」、右：広島市HP「西区障がい者支援事業所Map」より引用)



広島市西区民児協

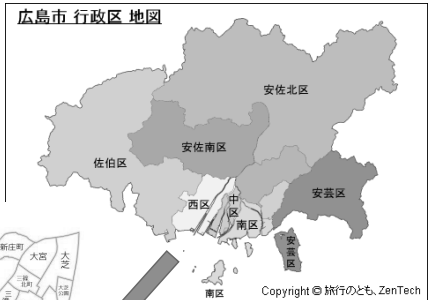
民生区	定数	(うち主任 児童委員)
大芝	27	2
三篠	34	2
天満	16	2
福島	22	2
観音	24	2
南観音	25	2
己斐	25	2
己斐上	18	2
古田	22	2
高須	15	2
庚午	24	2
草津	23	2
井口	28	2
井口台	18	2
計	321	28

(R5.7.1現在)

西区(広島県広島市)



広島市 行政区 地図



Copyright © 旅行のとも, ZenTech

南観音地区民児協について

- 大きく2地区（南観音と観音新町）を担当
- 地区担当23名、主任児童委員2名
- 令和元年12月の一斉改選での新任者が、コロナ禍において十分に活動ができない中で令和4年12月の一斉改選を迎え、コロナ禍以前の活動を知る民生委員・児童委員が半数になっている状況。

南観音での取り組み①

夢トピア（社会福祉法人もみじ福祉会）



（社会福祉法人もみじ福祉会HP「くらす」より引用）

グループホーム
ショートステイ



おりづる作業所（社会福祉法人おりづる）



（社会福祉法人おりづるHP「おりづるとは」より引用）

生活介護
ショートステイ

南観音での取り組み②

餅つきをみんなで！

西区社会福祉協議会を中心に、

- ・西区心身障害者父母の会
- ・手をつなぐ育成会西支部
- ・おりづる作業所
- ・もみじ作業所夢トピア
- ・南観音学区社協
- ・南観音地区民児協障害者部会

- 開催前に関係者が集まり、事前打ち合わせと役割分担
- 食材買い出し 野菜などは近隣で野菜を生産活動として作っている障がい者作業所から購入
- 公民館を2日間借り、材料の下ごしらえ
- 小豆は事前に振り分け、各家庭でぜんざい用に煮て準備
- 男性ボランティアの方が重たい石臼を準備
- 当日は朝6時から準備開始、雑煮やぜんざい、あべかわもちなど
- 太鼓の披露など、食事をとりながら皆さんが楽しめるイベントも！
- 参加者は総勢200人！

南観音での取り組み③



南観音での取り組み（今後）

- ・ 地域での行事（盆踊り、お祭りなど）にも、職員と利用者の方に参加いただいているが、職員の人手不足によりなかなか全ての利用者の参加が難しい…

交流も兼ねて、付添などができないか？

- ・ 地域交流スペースでのイベントがコロナ禍の中で活動縮小。

地域の子どもたちの居場所づくりと、障がいのある人との交流の場として何かできないか？

手探りの状態ではありますが、できることはまだまだある。

少しずつ、できることから取り組みたい。

ご清聴ありがとうございました。

